



はくめい

明治大学校友会千葉県西部支部柏地域支部

P1_支部長挨拶

P2_ホームカミングデー、私の履歴書

P3_登山学校との出会い

P4_講談鑑賞、マンドリン演奏会、他催し物のお知らせ

創刊号

2007年秋

発行人 猪瀬主税

第五回支部総会報告

五月一二日プラザハイアン柏において開催し、平成十八年度活動報告・決算、平成十九年度事業計画・予算が承認された。



明治大学校友の皆様へ

人は、生まれ故郷を忘れることはありません。

人は、学び舎、母校を忘れることはありません。

明治大学校友会は、2003年4

月1日の大幅な会則改正に基づき、新校友会として、発足することになりました。

名称も、柏地域支部と改め、新たな会則に従って、2003年6月29日、20名の発起人と有志の方々の奉仕活動により、120名程度で設立総会を立ち上げました。

2004年6月12日の定期総会には、校友会本部から、前川副会長、千葉県西部支部からは、三宅西部支部長を迎え、念願でありました柏地域支部旗を披露することができました。懇親会では、中川純子会員の紹介で、明大オーケストラOBによる賛助演奏もあり、若いも若きも、母校と言つ共通の広場で、共に語り合い、盛会裏に終えることができました。

本年、柏地域支部のホームページを開設しましたところ、若い校友からのアクセスも増えつつあるようです。

発足間もない支部で、会員数も財政的にも豊かではありませんが、「焦らず、無理せず、背伸びせず」

「前へ」、をモットーに歩んでまいりたいと思っています。

校友の皆様方の柏地域支部へのご参加をお待ちしています。

最後に私の好きな永六輔さんの詩を記して、ご挨拶といたします。

「生きて居るといふことは、誰かに借りを作ること。生きて行くといふことは、借りを返していくこと。

誰かに借りたら、誰かに返そう。誰かにそうして貰ったように、誰かにそうしてあげよう。生きて行くといふことは、誰かと手を握ること。握った手の温もりを、忘れないで居ること。

巡り合い、愛し合い、別れのその日まで、悔いのないように、今日、明日を生きていよう。人は一人では歩いていけない、人は一人では生きていけない。」



柏地域支部長
猪瀬主税

第一〇回

ホームカミングデー

恒例の明治大学ホームカミング

デーが10月14日(日)明治大学で開催されました。

「招待対象校友」

昭和27年以前卒業生・昭和32年卒業生・昭和42年卒業生・昭和52年卒業生・昭和62年卒業生・平成9年卒業生

今回は、約4700名の校友が集まり、開会式は、アカデミーホール二階席まで交友が集まり盛会に行われました。式の開会前に物故者となられた校友の冥福を祈り黙祷をし、式の最後に校歌を1番から3番まで歌いエールの交換を行い久しぶりに学生気分を味わった。

記念講演

「夢にむかって」

(講師)

星野 仙一(昭和44年卒)
闘将 星野仙一が『燃ゆる心』を熱く語りました。

「会場」アカデミーコモンホール

午後1時15分～2時15分

「世界の中のニッポン」

(講師)

蟹瀬 誠一(明治大学文学部教授)

記者として、キャスターとして世界を舞台に数々の取材を成功させてきた蟹瀬誠一氏が『世界の視点』でわが国の経済と教育について語りました。

「会場」リバティホール

午後1時30分～2時30分

パネルディスカッション

「柔道大国日本のオリンピック戦略」～始めの声はもつかかっている～パネリスト・小川直也/吉田秀彦/阿武教子/棟田康幸/泉浩

「会場」リバティホール

午後3時～4時まで

アトラクション

明治大学マンドリン倶楽部演奏会「会場」アカデミーホール
午後3時45分～4時45分
梅后流江戸芸かっぱれ
「会場」アカデミーホール

午後2時45分～2時45分

で福引抽選会

「会場」アカデミーホール

午後2時45分～3時30分

福引き抽選券1枚千円

全国物産展

「会場」リバティタワーエントラ

ンスでは、校友提供の日本酒・焼酎の試飲、缶ビール2本と清涼飲料1本が500円と割安で、提供された。また招待校友には、記念品として、文字盤に校章があしらわれている懐中時計が渡された。

私の履歴書

白雲なびく駿河台の学

窓を出て 半世紀に亘る

今日までを回顧して

戦禍が残る昭和25年4月、水戸地方検察庁に検察事務官として採用され、41年余に亘り幾多の変遷を経て歩んできた法務・検察での生活を平成3年5月9日定年を迎え、そして定年後を「保護司」「人権擁護委員」及び「柏市情報公開・個人情報

報保護審議会委員」として地域社会に貢献してきたいわゆる第二の人生と、趣味三昧に生き甲斐を求めながら心豊かに歩んでいる今日までの第三の人生を、総じて半世紀に亘り限りなく振り返りながら駆け足で回想してみました。

(1) 法務・検察での歩み

水戸地検を振出しに、法務省刑事局、最高検、名古屋高検、法務総合研究所、秋田・横浜・千葉地検・同松戸支部と歩んできた中で初任地の水戸地検では、東京地検へ応援派遣された折の思い出として、詐欺容疑で勾留中の暴力団組員の情婦が、有名な現役女子大生であったうえ、その生い立ちが病院の院長令嬢であったという逸話、法務省刑事局では、国の基本法である刑法全面改正の立法作業に参画できたこと。最高検及び名古屋高検では、法務省刑事局長から検察事務処理に関する調査委託を受けたこと。秋田地検では、事務局長として捜査部門の検察事務官に対する処遇の改善を本省当局に上申し改善されたこと。横浜地

検では 特例選考により検察官に転官する備えとして捜査実務習得の機会を与えられ単独捜査に従事したこと。そして検察官に転官しての千葉地検では 山積する交通事件の当月処理を目的に時を惜しみながら当たったこと。また 松戸支部では 公判立会にも従事して法廷での対弁護人との攻防が精神的労働に終始したこと。

(2) ボランティアとして歩んだ道と 趣味三昧の日課に生き甲斐を求める徒然の今日。

いくつかボランティアのうちから 検察と表裏一体の関係にある更正保護としての保護司では 覚せい剤取締法違反等を重ねて反復服役した対象者の改悛意欲と 引受人である雇用主の協力で社会復帰が容易にでき処遇に成功した事例や 保護観察そのものを軽視して居留守など接触を回避する処遇困難な事案に試行錯誤の対応を繰り返したこと。

以上いくつかの公的ボランティアの任期を終えた今日は 趣味三昧

とばかりに写真に生き甲斐を求めながら朝日新聞社の「全日本写真連盟」に入会し、時には同連盟主催等によるコンテストや法曹界特別会員として会員誌『法曹』のサロンに応募する等して刺激を受けている一方 パソコンでのオリジナル写真集の作成等で独り楽しむ今日にあります。

なお 平成13年秋には叙勲の栄に浴し家内同伴で皇居に参内 陛下にそれも身近な位置で拝謁できたことは、感激の極みでありました。以上 半世紀の歩みをそれも紙面の都合で割愛しながら文字通り早足で纏めてみましたが 歳月の過ぎる早さが中国の思想家『莊子』が詠んだ詩の一節『白駒過隙』そのものであることを改めて実感し 刻よ止まれと叫ぶ思いが募る今日です。

白田 誠 (昭25年旧法専卒)

登山学校との出会い

三年前のちょうど今頃のことである、宅配されたスポーツ新聞の記事

事が目に留まった。それは初心者、中高年者を対象とした登山学校の募集記事であった。

定年退職後、健康維持のためウォーキングを始めていた。

其れが高じて、この頃は山歩きに目を向け身近な山を登り始めていた。何回か登っているうちに、登り終えたときの達成感を味わえるようになり、これから色々な山に登ってみたいという意欲が出てきていた。そんな矢先の募集だったので飛びつくように、入校手続きを取ったものである。これが、登山学校との出会いである。

そして期待感と不安感が入り混じった複雑な思いで参加した初めての山行以来、早いもので三年が過ぎ、昨年十二月の修了式で無事全過程を終了することが出来た。

振り返ってみると三年間で三十数箇所の方に登った。どの山行を取ってみても、それぞれに思い出があり貴重な体験であった。なかでも、日本の名峰と言われる、北アルプスの槍ヶ岳、奥穂高岳、剣岳に登った

事は一つの財産と言ってもいいほどの素晴らしい出来事であった。おかげで、三年前よりは山に親しみを持つ事ができ、山の良さが少しは分かってきたような気がする。そして、私の日常生活の中で登山の占める位置が大きくなってきていることを実感する、今日この頃である。

近頃よく、「どうしてその歳になつて憑かれた様に山に登り始めたの」と言われることがある。答えはいつも「山に登る度に新しい感動があるから」と、頂上を踏んだときの感動、めったに見られない景色に出遭った時の感動、きれいな花を見つけた時の感動は、何物にも変えられない程素晴らしいものである。そして、山を通じて多くの人と出会うことができたことも感動の一つに数えられる。何はともあれ、大袈裟に言えば、登山学校に入校して私の人生が大きく変わったと言つことである。

登山学校の校則に、「山に親しみ、山を愛し、山から学ぼう」とある。この言葉は何事にも通じることと

考えるが、この気持を大切にしておいて、力の許す限り、できるだけ長く山との付き合いを続けていくことが出来るよう祈りながら、今日もトレーニングに出掛ける私である。

武内 清志（昭和40年卒）

講談鑑賞

人前で話すのはどうも苦手だ。特に酒宴で盛り上がりつつあるときはマイクを使っても声が通らず、話を聞いてもらえない。その悔しい気持ちを校友会の先輩である佐々木さんに聞いてもらったときのことである。

「集会で演説するのは楽な方だ。会に参加した人は話を聞くために集まったので、好意的に耳を傾けてくれる。難しいのは街頭など不特定多数を相手にする演説で、タバコを吸っている人を対象にするなら2分間、歩いている人なら声が届く30秒内で区切りがつくように話さないといけない。」

さすがに長年の議員活動で鍛え

た演説の達人の話には迫力がある。

「恐れ入りました。とても面白い話です。しかし私は議員さんにはならないので演説なんか不得手で結構……と居直ってしまいたいところですが、それも云ってられない事情があります。来月実施される資格試験の研修講師を引きつけた事を思い出しました。」

「資格試験の研修講師なら、人前で話す中でこれ以上やさしい状況はない。受講生は話を聞いていなければ試験に落ちてしまつたのだから、嫌でも聞いてもらえる。」

「初心者の中にはそのくらいが手頃です。それにしても声が通らないと困るのですが……」

「声は腹から出すと通るようになる。それに話には勢いが必要（云々）……」

佐々木さんは演説が得意なだけではなく、寶井馬琴門下で佐々木琴山という名前を持つ講談の名取りでもある。話し方の参考にもなるか

らと定期公演会に誘われて銀座の「お江戸日本橋亭」まで伺った。

素人演芸と侮ってはいけない。目で見たよりも鮮やかなイメージを脳裏に描かせる話芸はIT技術を駆使したプレゼンよりすごい。

講談はよく「見て来たような嘘を云い」といわれるが、琴山氏は演題についてインターネットで調べただけでなく、現地に赴いて謂れを確認することもあった。琴山氏はじめ公演された方々の趣味を羨ましく思った。

山田秋彦（昭和53年卒）

マンドリン倶楽部演奏会

我孫子支部と共催

平成十九年十二月八日（土）我孫子駅南口けやきプラザふれあいホールにて昼夜二回公演で開催。

前売り券 2300円

当日券 2500円

全席自由

第一部（古典音楽）

第二部（日本のメロデー）

第三部（世界の名曲）

チケット販売所

柏高島屋友の会、浅野書店 他

柏地域支部ゴルフ大会

恒例の第七回ゴルフ大会

期日 十一月十九日（月）

場所 玉造ゴルフ倶楽部

若海コース

柏地域支部新春の集い

平成二十年一月二十七日（日）昼に、

恒例の「新春の集い」を前回と同様

柏駅西口「麗宮飯店」で開催します。

詳細については 追って皆様にご案内いたします。

編集後記

創刊号ですので、至らぬ点が多々あると思いますが、皆様のご意見、ご協力をお願いいたします。（編集担当）